平成 30 年 2 月 26 日
東日本大震災メモリアル
施設整備実行委員会

【震災を風化させないプロジェクト】震災伝承看板の設置式を行います。

～ 第１号！ 技術者としての経験と教訓を後世に伝える看板を設置 ～

東北地方整備局、被災３県（岩手県、宮城県、福島県）及び仙台市で構成する「東日本大震災メモリアル施設整備実行委員会」では、インフラに関する東日本大震災の経験・教訓を後世に伝えるための伝承看板を整備することとしています。

当委員会で設置する **第１号** の伝承看板を岩手県・宮城県に３基設置しましたので、両県で設置式を行います。

設置式日程等

■日　時 ： 【宮城県】平成３０年２月２８日（水）１０：００～１０：３０
【岩手県】平成３０年３月　５日（月）　９：００～　９：３０

■会　場 ： 【宮城県】宮城県岩沼市 千年希望の丘 相野釜公園 敷地内（別紙－１）
【岩手県】岩手県宮古市 宮古市役所 庁舎敷地内（別紙－２）

■次　第：１．開式・実行委員会よりご挨拶
２．主旨説明
３．招待者よりコメント
４．写真撮影・閉式

■招待者 ： 【宮城県】岩沼市長
【岩手県】宮古市長、（一社）宮古観光文化交流協会 会長

■その他
- 宮城県設置式については、悪天候時中止します。中止の場合は別紙－３「連絡先登録書」にて登録いただいた連絡先へ当日の朝までにご連絡いたします。
- 岩手県設置式については、悪天候時は宮古市庁舎内で行います。
- 次第及び招待者に関しては現時点の予定であり、変更となる場合があります。

今年度設置する看板の内容・設置箇所（別紙－４）

救援ルートを確保した道路啓開「くしの歯作戦」（岩手県宮古市 宮古市役所庁舎敷地内）

ポンプ車集中投入 仙台空港を早期“再生”（宮城県岩沼市 千年希望の丘 相野釜公園敷地内）

支援物資輸送を確保した航路啓開（宮城県仙台市 スリーエム仙台港パーク敷地内）

＜発表記者会＞　岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、東北専門記者会、東北電力記者クラブ

問合せ先
東日本大震災メモリアル施設整備実行委員会 事務局 国土交通省 東北地方整備局　TEL 022-225-2171（代表） 企画部 企画課　課　長　舘澤（たてさわ） 清城（きよしろ）（内線 3151） 企画部 企画課　建設専門官　岡本（おかもと） 守（まもる）（内線 3158）

別紙－1

千年希望の丘　相野釜公園
震災伝承看板設置式　案内図

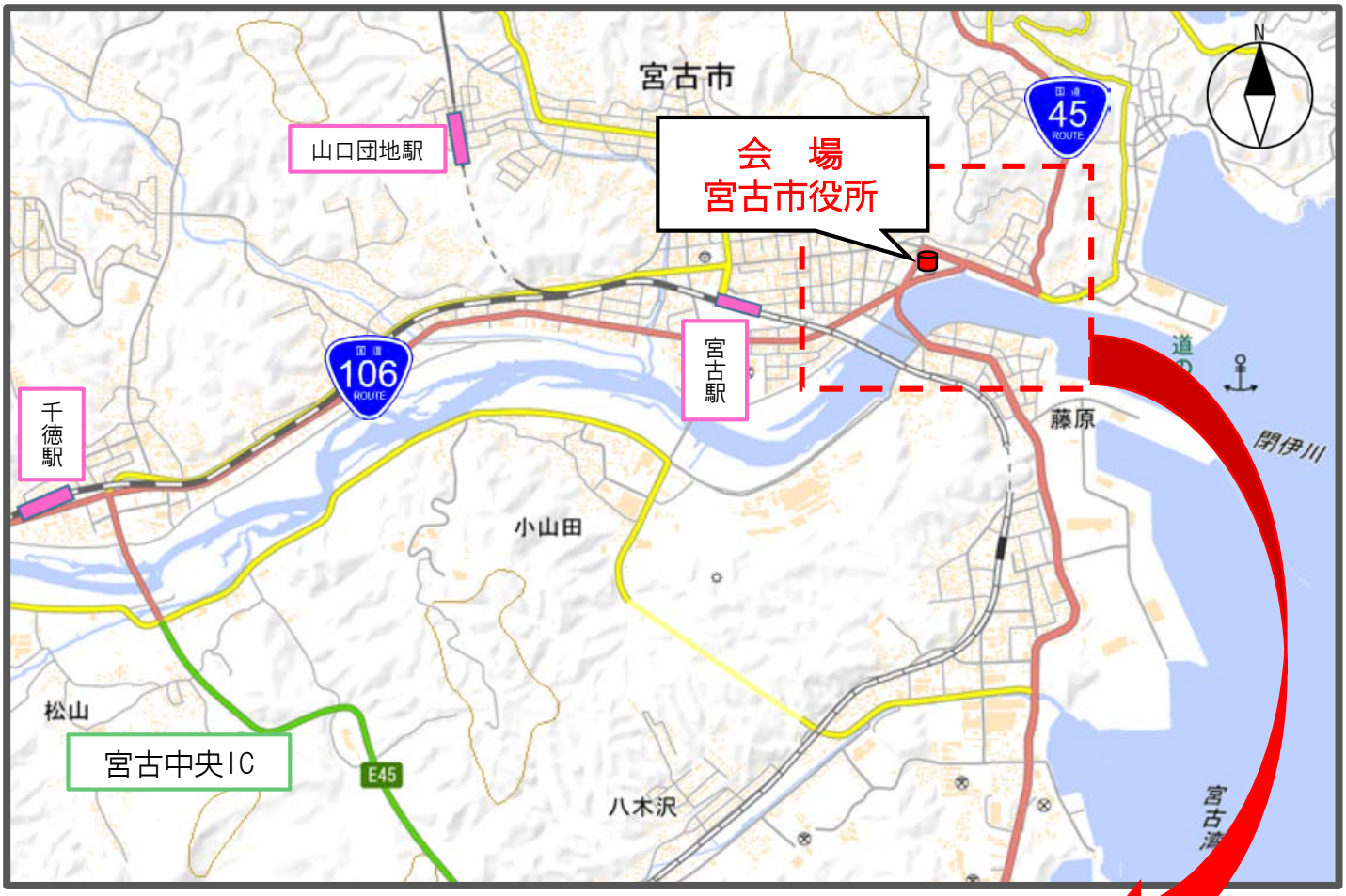


この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。【承認番号 平29東複 第33号】

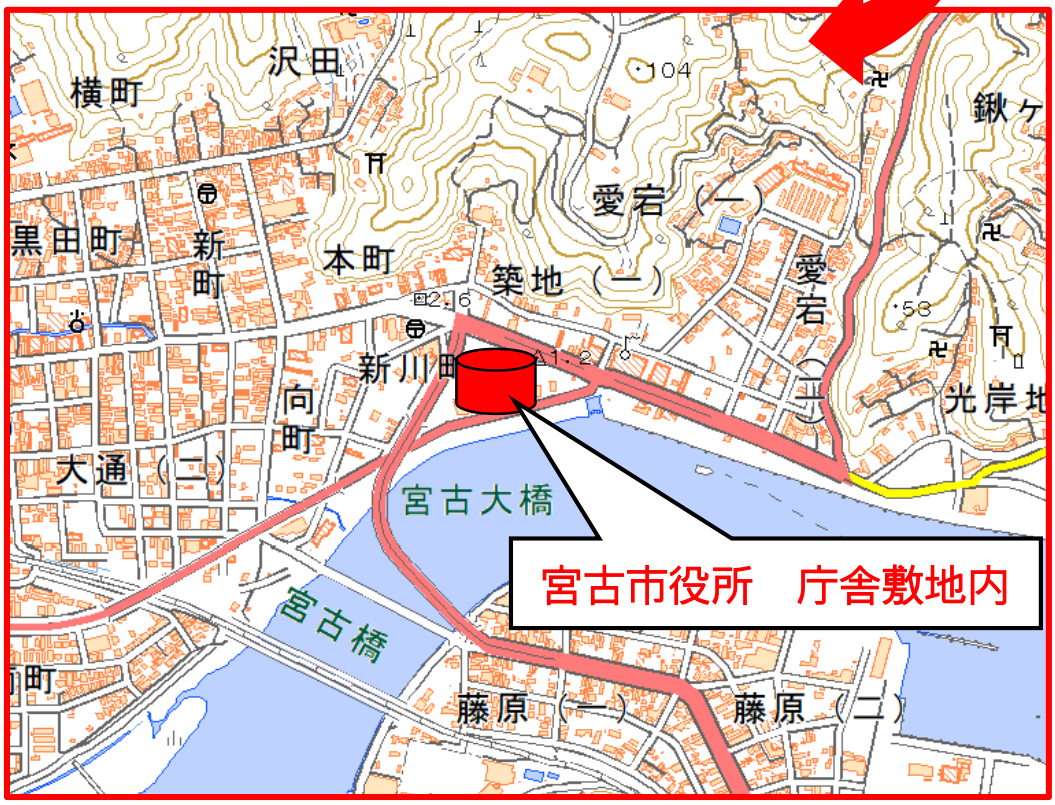


別紙－2

宮古市役所
震災伝承看板設置式　案内図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。【承認番号 平29東複 第33号】



別紙－３

東日本大震災メモリアル施設整備実行委員会

震災伝承看板設置式
連絡先登録書

悪天候時、中止の連絡を希望される報道機関におかれましては
ご連絡先の事前登録をお願いします。

FAX送信期限

【宮城県設置式】 2月27日（火）17：30まで

1．報道機関名（会社名及び部署名）

2．ご連絡先

ご氏名	連絡先 （当日連絡可能な携帯番号等）

3．送付先

FAX：022-221-9890

（ 国土交通省 東北地方整備局 企画部 企画課 企画第一係あて ）

4．その他

■ 荒天時の中止の連絡について

ご登録いただいた上記連絡先へ、下記日時までにご連絡いたします。

【宮城県設置式】2月28日（水）8：30 まで

岩手県宮古市役所での設置式については、荒天時、市役所庁舎内で行います。

東日本大震災メモリアル施設整備事業

別紙－4

プロジェクトの目的

◆震災の経験と教訓を風化させず、忘れずに、後世に伝える
◆広く、多くの人へ発信・見て触れて感じる・そこにあったストーリーを伝える

震災の記憶（有形・無形）の収集

- 津波に遭っても遺された建物、施設
- 現場での出来事（場所・モノとストーリー）

- **津波の爪痕**や**自然の脅威**を伝える
- **震災の経験と教訓**を伝える
  - 自身の命を守った行動
  - 人の命を助けた行動
  - 日頃の備えの重要性
  - など

整備のねらい（目的）の明確化

- 地域住民（利用者）に伝える ⇒生活を守る
- 来訪人に伝える ⇒交流・観光との連携・波及
- 地域資源として活用する ⇒地域活性化
- など

テーマやルート、それに基づいたデザイン等の検討・構成

（アクセス性、管理上の課題等の検討）

東日本大震災メモリアル施設として整備
【モニュメント（説明板など）の整備】

【平成29年度 設置箇所】



【実行委員会 体制】

- 東北地方整備局（事務局）
- 岩手県
- 宮城県
- 福島県
- 仙台市

平成２９年度　東日本大震災メモリアル施設　設置箇所

	救援ルートを確保した道路啓開「くしの歯作戦」	支援物資輸送を確保した航路啓開 （仙台塩釜港）	ポンプ車集中投入 仙台空港を早期“再生”
設置箇所	宮古市役所　敷地内 （岩手県宮古市新川町2-1）	スリーエム仙台港パーク　展望台 （宮城県仙台市宮城野区港2丁目5）	千年希望の丘　相野釜公園　２号丘 （宮城県岩沼市下野郷浜177番地）
設置イメージ			
概要 ・ 盤面イメージ	太平洋沿岸に押し寄せた津波により、大量のがれきが道路に流出し、沿岸各地が孤立した。 地元建設業者、国、自治体等関係者らは、震災直後に立案された「くしの歯作戦」のもと、一丸となって道路啓開を実施し、沿岸被災地での救助活動、物資輸送を可能とした。 宮古市役所前の国道45号、国道106号は、震災時に「くしの歯作戦」として道路啓開を行った箇所であり、道路啓開時は、速やかに通行確保するため、市役所敷地内を一時的に迂回路として活用した。	太平洋沿岸に押し寄せた津波により、自動車やコンテナ等が港に流入し、船舶の入出港が不可能となった。 支援物資・燃料の輸送ルートを早急に確保するべく、震災直後より航路啓開を実施した。結果、発災から6日後の3月17日に第一船が入港し、被災地へ非常食や支援物資が届けられた。 設置箇所のスリーエム仙台港パークからは、航路啓開が行われた仙台港を見渡すことができる。	太平洋沿岸に押し寄せた津波により、空港の広いエリアが浸水し、空港は利用不可能となった。 国土交通省では、全国から排水ポンプ車を集中投入し、3月13日より排水を開始。3月16日には滑走路が暫定利用可能となり、アメリカ空軍・同海兵隊・自衛隊による日米合同救援活動「トモダチ作戦」の拠点として使用され、国内外の救援物資をヘリコプターや車両で被災地へ搬送するための輸送拠点として活用された。


救援ルートを確保した道路啓開「くしの歯作戦」

"Operation Comb": Removed debris and made roads passable for rescue and relief operations in the aftermath of the quake

2011年3月11日14時46分、マグニチュード9.0の巨大地震が発生。東北太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生。太平洋沿岸に巨大津波が押し寄せ、各地に壊滅的な被害をもたらし、瓦れきや橋の流出により沿岸部の各地を孤立させた。

東北太平洋沿岸の港湾においても甚大な被害があり、特に自動車やコンテナなどが海上に流出し、船舶の入出港が不可能となったことで、海上物流は完全にその機能を停止した。港湾機能が麻ひ状態にあり一方、支援物資や燃料の輸送ルートの確保が急務であったことから、船舶の入出港を可能にするため、海上に流出した障害物を除去し、船舶の入出港に必要となる水深を確保するための「航路啓開（障害物の除去）」を行った。

仙台港区では、3月13日夕刻の津波警報・注意報解除後の翌14日から航路啓開を開始し海面や海底に無数に散らばった障害物を全国から集結した船直機船が迅速に引き上げ、発災から6日後の3月17日に第一船が入港し、被災地へ非常食やも布などの支援物資が届けられた。塩釜港区では発災から10日後の3月21日にオイルタンカーが入港し、震災で燃料不足を抱える地域にガソリンや灯油などの燃料が届けられるなど、被災地の救援・復旧の大きな力となった。


支援物資輸送を確保した航路啓開（仙台塩釜港）

Reopening of waterways and securing of relief supply distribution (Sendai-Shiogama Port)

2011年3月11日14時46分、東北太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生。太平洋沿岸に巨大津波が押し寄せ、各地に壊滅的な被害をもたらし、瓦れきや橋の流出により沿岸部の各地を孤立させた。

東北太平洋沿岸の港湾においても甚大な被害があり、特に自動車やコンテナなどが海上に流出し、船舶の入出港が不可能となったことで、海上物流は完全にその機能を停止した。港湾機能が麻ひ状態にあり一方、支援物資や燃料の輸送ルートの確保が急務であったことから、船舶の入出港を可能にするため、海上に流出した障害物を除去し、船舶の入出港に必要となる水深を確保するための「航路啓開（障害物の除去）」を行った。

仙台港区では、3月13日夕刻の津波警報・注意報解除後の翌14日から航路啓開を開始し海面や海底に無数に散らばった障害物を全国から集結した船直機船が迅速に引き上げ、発災から6日後の3月17日に第一船が入港し、被災地へ非常食やも布などの支援物資が届けられた。塩釜港区では発災から10日後の3月21日にオイルタンカーが入港し、震災で燃料不足を抱える地域にガソリンやや灯油などの燃料が届けられるなど、被災地の救援・復旧の大きな力となった。


ポンプ車集中投入　仙台空港を早期“再生”

The concentrated pump truck Action : Early “Restoration” of Sendai Airport

2011年3月11日14時46分、マグニチュード9.0の巨大地震が発生。東北太平洋沖を震源とするマグニチュード9.0の巨大地震が発生。太平洋沿岸に巨大津波が押し寄せ、各地に壊滅的な被害をもたらし、瓦れきや橋の流出により沿岸部の各地を孤立させた。

東北の空の玄関口で重要な仙台空港も巨大津波に襲われた。
空港ロビーは1F全域まで浸水、1階約2.5階相当に、空港内は約2万3千人の避難者が集まった。
国土交通省では空港の再生に向け、排水ポンプ車を全国から集中投入。
震災直後の3月13日排水を開始し、3月16日には滑走路が暫定利用可能となった。これにより、3月18日から4月7日まで、アメリカ空軍・同海兵隊・自衛隊による日米合同救援活動「トモダチ作戦」の拠点として使用され、国内外の救援物資をヘリコプターや車両で被災地へ搬送するための輸送拠点として活用された。
その後24時間体制で排水作業が続けられ、ピーク時（3月24日）には、排水ポンプ車25台を投入している。排水ポンプ車が使用した水の量は約500万トンに達し、これは25mプール：14,000杯分にも相当する。そして発災から約1ヶ月後の4月13日、臨時便での一般航空機が開始された。